

にちぶん

2020年度

にちぶん 第9号

発行日 2021年3月

発行者 甲南女子大学日本語日本文化学科

甲南女子大学
文学部
日本語日本文化学科

教員紹介

酒井雅史 先生



私たちはことばを発することで、意識的にせよ無意識的にせよ多くの情報を伝え合っています。その中でも主に人間関係などを表す敬語や行為指示表現に興味を持って研究に取り組んでいます。知識やマナーとしてのことば違いといった社会的な制約に従って使われる側面と、話し手がどのように表現したいか、何を伝えたいのかといった主体的・主観的な動機によって使われる側面が、実際の会話でどのように絡み合い表現されているのか／されていくのかに興心があります。

甲南女子大学では、アカデミックスキルズやグループ討論、キャリアのための日本語、方言に関する授業を担当しています。「アカデミックスキルズ」の授業ではアカデミックな情報収集・整理の仕方、レポートの書き方、プレゼンテーションの実践などを、「グループ討論」の授業ではグループワークの進め方や討論の実践を、「キャリアのための日本語」の授業では自己分析からエントリーシートの書き方面接の模擬実践を、「方言」の授業では日本語方言に関する概説的なお話を、それぞれ行っています。すべての授業を通して、私の「楽しい」と感じていることを共有できるような授業を行いたいと考えています。

谷口重徳 先生



2020年4月よりホスピタリティコースに着任しました
谷口重徳です。関西（尼崎市）出身ですが、昨年までの
21年間、広島の地で大学教育と研究活動に携わってきました。
私はこれまで社会学をベースに芸術・文化、地域振興、観光などに興心を向け、近年はコンテ
ンツツーリズムについて研究しています。同時に、社会活動でもNPO法人広島アニメーション
シティという団体を設立し、広島市や広島県などの行政、地域住民や市民団体、スポーツチーム、
メディア、企業・商店街関係者、クリエイターらと一緒にになって様々なイベントを開催するこ
とができました。これらの研究・教育・社会活動を通じ、地域住民と来訪者（観光客）の関係性
について、日々、学びの機会を得たことは私自身にとって大きな財産になっています。この経験
を本学のホスピタリティコースの授業や演習など様々な機会を通じて
学生の皆さんにお伝えできるように努めます。



また、私は副専攻として陶芸作家や窯業地の研究と同時に、丹波焼（兵庫県）と信楽焼（滋賀県）の陶芸制作を長年続けてきました。前任校では授業で陶芸作品制作を指導したり、ワークショップや市民公開講座等も担当したりしてきましたので、今後も学生の皆さんに陶芸を通じて
日本文化に触れる機会をご提供できればと考えています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

目次

◆ 教員紹介

酒井雅史 先生
谷口重徳 先生

◆ 津田なおみ 先生にお話を伺いました

◆ 就職活動体験記

◆ 2020 年度 日本語日本文化学科の1年

◆ 卒業生インタビュー

◆ 2020 年度 卒業論文題目一覧

津田なおみ先生に お話を伺いました

：今日は、アナウンス分野の新任の津田なおみ先生にお話を伺います。

津田先生、宜しくお願ひします。

津田先生：お願ひします。

：まず始めに、簡単に先生ご自身のことをお話をいただけますか？

津田先生：私は2020年度からこの大学で教鞭を執ることになりました、津田なおみです。

フリーアナウンサーとしてかれこれ30年近く活動しています。テレビやラジオのお仕事をしながら今まで私が培ってきた30年間の蓄積を皆さんにお届けできたらいいなと思って授業をしております。

：大学ではどんな授業を担当されていますか？

津田先生：今は3つの授業を担当しています。まずは発声や喋り方の基礎を学ぶ1年生向けの「アナウンス入門」、それからアナウンサーなど人前で喋ることを仕事にしたいという方向けの「聴覚覚コミュニケーション演習」「聴覚覚コミュニケーション実習」という授業です。こちらはオリジナルのテレビ番組やラジオ番組を作成するなど、より実践的な内容になっています。

：ありがとうございます。

：津田先生はアナウンスに対してどういう思いを持っていらっしゃいますか？

津田先生：大きく言うと、「人生を変える力がある」と思っています。自分の声がどうしようもなく嫌いな子でも声の出し方を会得したことで声が変わって人生が明るくなったり、今まで人前で話すことに対して躊躇していた子が堂々と自分の思っていることを喋れるようになったり。そうすると出会う人が変わってくるので、人生も変わっていくんです。さらに、自分が話したいことを的確に構成立てて、言いたいことをちゃんと強調して話すことができたら、相手に届く率ってすごく高くなるんですね。やっぱり自分のことを自分できちんと話せたり、自分の思いを言語化できたりするっていうのは、すごく大きな意味で人生を良いように変える力があると思います。

：では、今後は、甲南女子大学でどんなことをなさりたいと思っていらっしゃいますか？

津田先生：冒頭でもお話ししましたが、私が30年間の経験を通して培ってきた技術的なことや精神的なこと、特にアナウンスしていくら技術が優れていても精神的にちょっと落ち込んだりするとそれが全部流れ方とか喋り方に出てるので、そういう気持ちの持ち方とかどういう風に喋ると相手に伝わるかっていうのを、30年の蓄積から皆さんに差し上げられるものは全部差し上げたいと思っています。

：ありがとうございます。では最後に、声の仕事塾の紹介をお願いします。

津田先生：声の仕事塾は、アナウンサーや声優など、声を使って仕事をしたい人を対象にした講座です。私が教えることもあります、主に外部の先生に来て頂いています。将来声を使った仕事をしたい人にとって、その業界にいる人の声を聞くっていうことはすごく重要だと思っているんですよ。話を聞く

ことで皆さんが学んでいることの延長上にここがあるっていうのを意識できますし、なんとなくほんやりしている未来をキュッと映像化できるようになるんじゃないかなと思っているので、声の仕事塾は定期的にやりたいなと思っています。こういう人呼んでほしい、っていうリクエストも隨時お待ちしております。

：私達も先日ナレーターとして活躍されている野村朋未さんのお話を聞くことができてすごくためになりました。

本日はありがとうございました。



インタビュー：

(2年)

(2年)

就職活動体験記

(4年)

2021年4月より神戸市立学校教員

教員を目指すようになったのは…

私が教員という仕事を意識し始めたのは高校1年生の頃でした。

10年以上お世話になったスイミングのコーチに

「教員に向いているんじゃないかな」と言われたことがきっかけです。

その後、大学の進路を考えるときに教員になると決意しました。

水泳の推薦で進学するか、教員になるため勉強で受験するかの二択を迫られていましが、後者の道を選びました。15年続けた水泳はその時引退しました。選手としてそれなりの成績も残していましたし、両親にも反対されました。私にとって「水泳をやめるほどの大きな選択」でした。

大学入学後は…

教員を目指して大学に入りましたが、最初から教員の仕事というものに明確なイメージがあったわけではありません。大学の講義やスクールサポーターとしての指導補助の経験、現職教員との会話の中から、教員の仕事、働き方などがだんだんと見えてきました。それと同時に自分が働く姿が具体的にイメージできるようになっていきました。しかし、教員になりたい気持ちが強くなるのとは裏腹に、3年生の最後に受けた採用試験模試の結果は散々なものでした。順位は下から数えた方が早く偏差値は30台、合格判定はEで「合格には一層の努力が必要」と…。これでは「教員になりたい」なんて言えない…。



採用試験に向けて仕切り直し

だからといって、逃げるという選択肢は私にはありませんでした。大好きだった水泳をやめて選んだ道です。諦めてはいけないと自分に喝を入れて勉強方法を見直しました。

4年生の前半は緊急事態宣言もあり自粛生活を強いられましたが、これはむしろ私にとっては幸運でした。勉強に集中できる環境となつたからです。おかげで模試では絶望的だった筆記試験に合格しました。その時点でもまだ登学禁止だったため面接対策には不安が残っていましたが、ZOOMを使って教職支援課のサポートを受けて準備しました。合格通知が届いたのは教育実習が終わった直後の10月でした。

教員は決して楽な仕事ではないと思うのですが…

社会では「教員はしんどい仕事」というイメージが強いかもしれません、私は楽なだけの仕事にはやりがいを感じません。また、「誰かのため」のその「誰か」が具体的にイメージできる仕事だということ、自分にとっては大事な点でした。「人を相手にしている」と感じられない仕事は苦手だということに、アルバイトの経験を通して気づいていたので。

まっすぐ、真面目に働けば、しんどくても楽しい瞬間があると思っています。

嘆かず、楽しく働く先生になりたいです。そして、ありきたりかもしれませんが、包容量と熱量のある教員になりたいですね。僕が深くなるには経験が必要でしょうし、逆に経験を積めば熱量は減るかもしれません。だから、両方をバランスよく持ち統けていくことが目標です。

2020年度 日本語日本文化学科の1年

6月

新入生特別授業「人間関係ワークショップ」
(オンラインにて実施)

講師：清田千恵子 氏 (演劇家)



7月 27日～31日

日本語教員養成プログラム「日本語教育実習」
実習先：神戸 YWCA 学院



オープンキャンパス (6, 7, 8, 12月開催)

学生による大学生活の紹介

お茶菓子日本紀行

(47都道府県の和菓子と文学作品を紹介)



8月

集中講義 & 講座 (オンラインにて実施)

集中講義「神戸ホスピタリティ実践論」(3日間)

集中講義「コミュニケーション産業論」(3日間)

9月 後期オリエンテーション・優秀学生表彰



11月 17～18日

2年生による芦屋市立小学校外国人児童生徒
日本語集中支援

12月 11日、18日

南女なでしこ講座「着物の着付け体験」

講師：松井澄子氏 (着付講師)



1月 卒業研究提出

1月 13日

韓国한밭大学校日本語科学生
とのハイブリッド日本語交流会



2月 1日

声の仕事塾

講師：野村朋未 氏 (フリーアナウンサー)



2月 15～17日

ホスピタリティ・コンダクターツアー演習
(オンラインにて実施)



3月

「視聴覚番組制作講座」

ミニテレビ番組制作&J:CoM 神戸芦屋エリアで放送

学位授与式

卒業生 インタビュー

2013年3月卒業

UCCホールディングス株式会社
UCCコーヒー・アカデミー

学生時代はどのように過ごしましたか？

学生時代は、学業はもちろんのことながら、友人との遊びや資格試験、お稽古にも時間を使い、何かに偏るのではなく、バランスよく過ごしました。何をする時も全力で実行するタイプだったので、友人と遊ぶ時も無駄に時間を使うのではなく、色々と企画して全力で楽しみました。

資格試験やお稽古では、興味のあった食品関係の資格を取得したり、幼稚園の時から続けていた書道の資格を取ったりするために、隙間時間があれば勉強や練習をしていました。

また、アナウンスの授業を履修していたのもいい経験になったと思います。そもそも人前で話すのが下手だと思っていたので、それを克服したいと思い履修しました。学外でMCのアルバイトもしましたし、アナウンススクールにも通い、伝える能力を磨っていました。

仕事の内容は？

卒業後は、皆さん多分一度は目にしたことのある商品を製造販売している神戸創業の食品メーカーで講師の仕事をしています。そもそも営業で採用されましたが、2年目にマーケティング本部に異動し、合格率3%の社内資格を取得し、今の講師の部署に異動になりました。社内・社外含め、幅広い方たちに食品の知識や技術の指導を行うのが主な業務内容になります。また、食品の競技会の運営事務局も担当しています。1年に1回開催される競技会で、全国行脚しながら運営と審査員をしています。

この仕事で一番やりがいを感じるのは、今まで自分が得た知識や経験を、お客様や社員にお伝えし、それを理解、習得していただきたい時です。「なるほど！！」「先生のおかげでできるようになった！」という言葉は素直に嬉しいです。

仕事のやりがいは？仕事で大事にしていることは？

仕事で大切にしていることは沢山ありますが、特に意識していることは、自分の価値観で物事を決めつけるのではなく、俯瞰して物事をみることです。業務上、色々な方に自分の考えをお伝えすることが多いので、沢山の目線を持っていないと、相手が本当に望んでいることをお伝えすることができないからです。

これは、この仕事だから大事なことではなく、今後皆さんが社会でセールスや、企画、事務など色々なお仕事をされる際に、絶対に必要となるスキルだと思います。

学生時代にやっておくべきだったと思うことは？学生時代の後悔はありますか？

学生時代を振り返って、やっておいてよかったと思うことは、資格を沢山取得したことです。社会になると本当に時間の確保が難しくなります。資格取得のためには、ある程度まとまった勉強時間が必要になりますよね。仕事が終わって疲れて帰宅した後に勉強をするのは、かなり気合が入っていないと難しいです。それに、仕事を頑張るために、休日は身体や精神を休める時間に使いたいと思うようになりました。その為、資格取得がどんどん後回しになってしまいます。資格はその人の頑張りが簡単に分かるバローメーターとなります。学生のうちに資格を沢山取得しておいて良かったと思いました。

社会にてて強く感じること、後輩へのアドバイスなどをお願いします

後輩の皆さんには、「限られた時間を有効に使ってください」とお伝えしたいです。大学生には自由に使える時間が有り余るほどあると思います。社会になると自由に使える時間がなくなります。旅行、勉強、遊び、何でもいいです。何もせずに過ごすのではなく、有効に時間を使ってください。皆さんが学生時代を思う存分楽しむことを、心から願っています。



学生時代はどのように過ごしましたか？

私は、3年次に専門学校から甲南女子大学へ編入学という形で入学しました。昔から文学が好きだったので、専門学校生のとき、「谷崎潤一郎」に出会いました。そして谷崎の研究や勉強ができる授業があり、谷崎ゆかりの地である神戸で研究を行いたいと思うようになり、大学編入へ向けての準備をし、甲南女子大学の日本語日本文化学科に編入しました。編入後はバイトと趣味を楽しむ生活でした！読書が好きだったので本屋で働き、ずっと本に囲まれる日々を過ごす学生時代でした…

就職先決定のきっかけは？

私は就職先を決めるときに「人とは違う仕事がしたい」というのが大前提にありました。ただ「こんな仕事がしたい！」という具体的な職業ははっきり決まっていませんでした。そんな時、就活フォーラムに参加し、今の会社に出会いました。小さい頃から、制服の学校に通っていましたし、制服に興味があったこともありこの会社に入りたい！と思ったのがきっかけです。

2019年3月卒業
菅公学生服株式会社



仕事の内容は？

私の会社は制服のメーカーなので主に制服の製造・提案・販売等を行っています。私の現在の所属は営業部で、学校への制服・体操服の提案はもちろん、販売店との商談、学校でのセミナー（ソリューション活動）等を行っています。

仕事のやりがいは？仕事で大事にしていることは？

実は、最初は営業の仕事をやりたくないと思っていました。しかしお客様と関わっていく中で、自分自身で提案ができたり、学校の先生や販売店から「ありがとうございます」「頼りにしているね」と言っていただいたらしく、営業が楽しくなりました。また入学の時期になると実際に購入の方とお会いして制服の採寸や販売も行うので、お客様の笑顔を見られるのがとても嬉しいです！

学生時代にやっておくべきだったと思うことは？学生時代の後悔はありますか？

一番は教養を身につけることだと思います。営業をしていて相手の方とお話をする際に、自分の知識が少ないとやはり会話が満足にできなかったり話題が作れなかったりするので、大切なところに沁みました。また営業活動をしていく中、社会に出て知ることや学ぶことが多くあるので、日々勉強の積み重ねだと思います。

学生時代の自分に声をかけることができるとしたら何と言いたい？

学生のうちにしかできないこともたくさんあるので、やりたいことをしっかりとやってたくさん知識を身に付けておいでください！



私は本がとても好きなので本屋のアルバイトを2店舗掛け持ちしていました。また小学生の時から入っていたオーケストラには、卒園後も活動の手伝いに参加し、多くの方と関わる時間を持ち、多くの話を聞くことができました。これらの経験は自分の強みにもなっています！

社会にてて強く感じること、後輩へのアドバイスなどをお願いします

やはり学生の頃とは大きく環境が変わり、わからないこともたくさん出でます。最初は辛いこともあります。実際、私も入社してから辛い時期がありました。しかし学校の先生や販売店様と話をし、営業を行っていくうちに「相手のために何かしたい」と思えるようになりました。そして、辛いこともあるけれど頑張ろうと前向きな気持ちになっていきました。また趣味をする時間もストレス発散になっているので、趣味があるのもいいことだと思います！何か一つ自分の楽しみや好きなことやりがいを見つけて取り組んでみてください！

2020年度 卒業論文題目一覧

ホスピタリティコース

- 神戸市民の想いと癒しの場・須磨水族園の今後
～リニューアル後のるべき姿へ提案～
- ホスピタリティ溢れる甲子園球場売り子について
～愛されるキャストであるためには～
- テーマパークの将来性
～ユニバーサルスタジオジャパンにおける事業と展望から～
- 日本のディズニーリゾートが変される秘密
ホスピタリティ産業におけるSDGs
～プラスチック削減に向けた動き～
- 猫から学ぶおもてなし
- 尼崎市の地域活性化
～住んで良し・訪れて良し尼崎市のまちづくり～
- 小野市の観光振興策
～ハートフルシティ小野の取り組み～
- スポーツによる地域活性化について
- 養父市の観光振興による地域活性化について
観光産業による高槻市の地域振興
神戸の地域振興について
～住んでよし・訪れてよし 神戸市のまちづくり～
- 躍進する観光立県沖縄
～今後の沖縄の進むべき方向性への提案～
- 高梁市の地域活性策について
～住んでよし・訪れてよし、高梁市～
- 子育てとホスピタリティ
～母として、1人の女性として～
- ブライダルに対する意識変化
～ちょうどいい～おもてなし
- アニメ聖地巡礼による地域活性化
～『夢け！ユーフォニアム』を事例に～

視聴覚コミュニケーションコース

- “クルマ離れ”の時代を生きる
～イベント企画を通じて～
- 読書と出版はどうなるか
～自らの経験をふまえて～
- 自動販売機時代の終焉
- 男女の出会いのニュースタンダードを考える
～マッチングアプリの比較を軸に～
- アイドルが見ている景色
～女子大生が探るアイドルの姿～
- 私たちと制服～変わる形と変わらない心～

コンビニエンスストアの未来
～コンビニ飽和の時代を生き抜く～

会食恐怖症について
～「食べられません」を責めないで～

コロナウイルスの大卒4回生就職活動への影響

南女生偽志録を録画ってみた
～大学紹介動画の制作～

二次創作から見る「あんさんぶるスターズ！」

「ニャンゴ争奪戦」
～少人数で遊べるボードゲームの制作～

カフェはどうしたら生き残れるか

「このBLがやばい！」から見るボーイズラブ

海外で読まれる少女漫画
「NANA」と「花より男子」を比較して

宝塚歌劇における壬生義士伝の研究

『マザーズスピリット』の魅力

日本語日本文化コース

デレステまるわかりブック

演劇台本

オーシャンズ11 宝塚版と映画版の比較

言葉の意味における誤用
～甲南女子大生と日系婦人会の意識調査～

史実と創作の比較
～『銀魂』『逃げの桂小五郎』などから～

モノクローム

朗読『はるがいくよ』
人に聞いてもらえる声や話し方を学ぶ

愛媛県方言の研究
～今治方言でどんなんなん？～

本屋大賞受賞作についての研究

明智家縁の地巡り

宝塚歌劇の名作舞台
～演目内容から探るヒット作の秘められたメカニズム～

宝塚歌劇『新源氏物語』における舞台化の手法

『源氏物語』挽歌と「煙」「雲」

藝樽と商店の変遷について

『源氏物語』を通して見る紫式部の教育觀

松浦宮物語について

「茨木童子と雪女の創作小説」

日韓アイドルの活動からみるアイドル業界の今後
～彼女の私生活～を中心に～

日韓リメイクドラマの比較研究
『ミセンー未生』と
『HOPE～期待ゼロの新入社員～』を題材に

ファンタジー小説の創作
ゆるキャラを用いた地域振興について

短編小説の執筆
森見登美彦『熱帯』の研究

既出作品で見る葛飾応為像
～描かれた応為～

映画『となりのトトロ』から考える住宅と暮らし
新しい生活様式における
自宅ができるアナログゲームの作成

和歌における植物の移り変わり
～桜、梅、萩、紅葉を鑑賞する～

女子大学生と就業意識
～女子大学生の就業意識に影響を与えるのは何か～

公教育における外国人児童生徒の教育
～韓国・フランスとの制度比較をもとに～

就労後のジェンダー格差について大学生がもつイメージ

小説で使用される語彙のヴァリエーションの変化
～1990年代と2010年代の小説を比較して～

学校教育におけるLGBT

外から見る『福井県』
～嶺北出身県外在住者の福井県と福井弁に対する意識～

日本のイレズミ文化はどのように変遷してきたか

学校教育における修学旅行の意義

地方出身の若者とアイデンティティ
～静岡出身大学生の出身地に対する
評価のありようを決めるものは何か～

外国人労働者受け入れ政策の課題
一日籍の政策決定過程分析～

多量を表す副詞～たっぷり・ぞっさり・いっぱい～

韓流ブームは日本大学生と専門学校生の
韓国認識をどう変えたか